

ピアノ アドバイザー



加藤 紗耶香

宇都宮市出身。2歳よりピアノを始める。

宇都宮短期大学附属高等学校音楽科(ピアノ)を経て、東京音楽大学器楽専攻(ピアノ演奏家コース)卒業。

同大学大学院器楽専攻鍵盤楽器研究領域(伴奏)修了。

第9回PIARAピアノコンクール全国大会年齢無制限部門最優秀賞(第1位)。第32回ピティナ・ピアノコンペティションF級全国大会入選。第14回シヨパン国際ピアノコンクール inASIA アジア大会 一般部門銅賞他多数の受賞歴を持つ。

国内外の様々な音楽祭や演奏会へ出演、多数の推薦を受けマスタークラス等を受講。

これまでにピアノソロを、中山直子、小倉郁子、菊地麗子、弘中幸子、野中正の各氏、

伴奏法を土田英介、水谷真理子、伊賀あゆみの各氏、

室内楽を山洞智、浦川宜也、竹中勇人の各氏に師事。

ヨゼフ・ストーンペル、マリア・シュライベル、ヨアンナ・ドマンスカ、アンジェイ・ヤシンスキ、カールマン・ドラーフィ、コスティン・フィリポイウ他各氏のレッスン、マスタークラス等を受講。

多数のオペラ・オペレッタの稽古・本番ピアニストを様々なオペラ団体等で務め、コレペティウアとしても研鑽を積む他、ソロ・声楽及び器楽の伴奏・室内楽ピアニスト、オーケストラ内の鍵盤奏者等としても精力的に活動をしている。

宇都宮短期大学音楽科及び同附属高等学校音楽科講師。宇都宮共和大学子ども生活学部講師。

日本オペラ振興会育成部講師。PTNA(全日本ピアノ指導者協会)指導者会員。

日本文化創成協会ピアニスト。ヴェルデ会会員。

—大きな舞台で 音楽を楽しむ為に—

1. 集中力を高める

舞台へ立って人前で演奏をすることは、何ものにも代えがたい、とても貴重な体験です。舞台での演奏は緊張がつきものですが、自分の力をしっかり出すには普段から集中力を高めることが大切です。

最初から最後まで途切れることのない集中力は、満足のいくパフォーマンスを本番で行うための大きな手助けになります。毎日の練習の中でも、一瞬も気を抜かずに集中しきって演奏することをイメージし、実践していきましょう。



2. 歌うことの大切さ

演奏をする上で大切なことは、他の楽器とのアンサンブルの中からも学ぶことができます。私は特に声楽とのアンサンブルから、気持ちを込めて演奏するために必要な「歌うこと」を学び、大変大きな影響を受けました。

「歌」は、歌詞がなくメロディーだけでも、人々の心に寄り添い音楽を導くことができるかけがえのないものです。日頃からピアノ曲だけでなく、多くの声楽曲や器楽曲を聴いて学び、「歌って」演奏ができるよう心がけましょう。

3. アンサンブルをする時に

伴奏などアンサンブルをする機会に恵まれた時は、自分を成長させるとができるチャンスです。

特に伴奏は人と関わり合い責任が生じるため、共演をする際にソロの演奏よりも緊張してしまうかもしれません。しかし、そのプレッシャーに打ち勝って演奏ができた時には、きっと自信を持つことができるでしょう。また、伴奏は共演者をサポートする大切な役割を担っていますが、音量のバランスや音色によって共演者を活かすことができない場合もあります。

いつも共演者へ対して思いやる心を忘れず、どのように演奏をすると、共にアンサンブルを楽しむことができるのか、練習の時からよく考えて取り組んでみてください。



4. リラックスをしてのびのびと

緊張をした状態でも自分なりの音楽を表現するには、体と心をリラックスさせ、舞台上の音を体全体で感じる必要があります。リラックスをすることで、普段とは違った環境の中でも研ぎ澄まされた感覚で音を捉えることができます。また、舞台上でどのような演奏をできるかは自分の気持ち次第です。

音楽と自分の世界観へ集中することができた時に味わえる、日常で味わえないような幸せを皆さんにも感じていただきたいです。

まとめ

練習を積み重ねるほど、自信がつくと同時に自分自身の力を出し切れるかどうか、不安になってしまうこともあるかもしれません。しかし、不安になることは音楽と真摯に向き合っている証拠でもあります。不安になる程に音楽へ愛情を感じることができている自分を誇らしく思ってください。

練習することや学ぶことは、自分自身を昨日よりもアップデートする手段として捉え、日々成長できることを前向きに楽しんでいただけたら嬉しいです。大きな舞台でも自分らしくパフォーマンスができる音楽家へと成長していくために音楽を慈しみ、自分にしかない感性を大切に磨いて、素敵なステージをたくさん楽しんでください！



宇都宮短期大学創立 55 周年記念 第 56 回彩音祭メインコンサート

宇都宮短期大学管弦楽団との共演